

午後2時11分再開

○議長（手嶋源五君） 休憩前に引き続き、会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、18番実藤輝夫議員の質問を許可します。18番実藤輝夫議員。

（18番実藤輝夫君登壇）

○18番（実藤輝夫君） 本定例議会一般質問の最後になりました、18番議員、実藤輝夫でございます。

今日の国内外の情勢を鑑みますと、本当に新たな厳しい時代に入った、このような時代の中で地方自治体はどのようにやっていかなければならないのか、市長を初めとする行政、そしてまた住民代表の一つであります議会、議員、それぞれの立場の中で重大な責務を負っていると考えております。

また、話はきのうになりますが、アーケード街の亀屋というところで、プロの室内コンサートに行かせていただきました。この朝倉の地におきまして新しい文化の動き、音楽に限らずいろいろな分野において文化が咲き誇る、かつてこの甘木、朝倉、杷木はそうした歴史的にも文化的にも非常に盛んなところであったというふうに考えております。今後、こうした文化の力が地域地域に根差し、心豊かな生活、住民の安寧が図られることを心から祈念いたしまして、以下、質問席より続行したいと思っております。

（18番実藤輝夫君降壇）

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員。

○18番（実藤輝夫君） 通告順位、いつも最後のほうが時間切れみたいな形になりますので、きょうは順位を変えまして一般質問させていただきたいと思っております。御了解をいただきたいと思っております。

まず、3番目に教育委員会を中心とした話になりますが、重要文化財、建造物、記念物等の保護管理と地域・教育現場の連携についてと通告をいたしております。

昨日以来、環境、その他を通じて教育のあり方が問われてまいりました。まさに私、今回、ある地域ボランティアの方々の思いが教育委員会のほうに皆さんと一緒にさせていただきまして、誠意ある、そして有意義なお話し合いができたというふうに考えております。まさに郷土を愛し、そして重要文化財、その他いろいろなものを保護し、そして後世に残していこうという方々の熱い思いを受けて、教育委員会としては真摯に対応していただきました。皆さんにかわりまして心から敬意を表したいと思っております。

一定の話の中で、今後の対応については出てきましたけども、教育長がその場には公務でおられませんでしたし、全体を通じて個別の問題から普遍していく問題ではなかろうかということで、私はこの通告をいたしております。

中身につきましては、隠れ家の森から端を発しまして、いかにして保護、管理、そして後世に残すかという課題の中での話でございました。物理的にいかなる施策をとるか。もう一つは、教育を通じて子供たちにどうしてこうしたものを保存し、郷土愛の一端として

進めていってもらいたい、こういったことを話をしてきました。十分に教育長はこの意を受けておられると思いますので、教育長のお考えをお聞きしたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 教育長。

○教育長（宮崎成光君） いつも文化財保護には御協力、御指導いただきましてありがとうございます。

今、朝倉市にあります文化財をどのように保護していくか、また活用していくか、子供たちとの関係をどう深めていくかということだというふうに思っております。ふるさとにあります自然、それから歴史、文化、遺跡等いろいろなものがございまして、これらに対する理解を深め、愛着を感じて、これを大切にしていく心を育てることが大事だというふうに思っています。これらの中には、形のあるものとなないものもあるように思います。それらの具体的なものに体験的に子供さんたちが触れながら、その意味するもの、価値するものを理解し、それらに思いを寄せ、価値に気づいていって、自分たちもこれまでこれを守り育てられた方々の思いを知って、保存、継承、発展させていく、そういう取り組みをしたいと思うような、そのような教育に努めたいと思っております。

以上でございます。

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員。

○18番（実藤輝夫君） かつて大平山の一角に、その近くに安見ヶ城というのがあります、御存じだと思いますが、休松の戦いがあった、非常に古戦場としても、我が郷土としても誇るべきところであります。その中に市民の方から御要望があつて、教育委員会、特に文化課が中心となって故事来歴の立て看板を立てていただきました。2カ所立てていただいた結果、非常に大平山を愛する人たちが、あるいは遠くから来た人たちもよくわかるということで好評であります。本当にありがたく思っております。

個別的な話の中から全体的な話という形になるわけですが、隠れ家の森、1500年の歴史を有する大楠が枯れやんといたしておりまして、これをいかに保護するか。1つは、それと同じように、大平山の例のように、これ五、六年前の話ですけれども、立て看を立ててきちんとした故事来歴の話を皆さん方に知っていただく。

もう一つは、地域の子供たちが学校教育、社会教育を通じてそうしたものを愛していく、大事にしていこうとする心を培っていく、これはきのうからずっと出ております話にも全く通ずるもので、その中に1つ、志波小学校が山田堰に自己研修に先生たちと行ったというような話はその話し合いの場に出てまいりました、非常にいいことだなど。こういったものが学校教育現場、子供たちと一緒に、そして地域の方はいつでも待っておる、いろんな話をさせてもらいたいし、子供たちにも伝えたい、こういったものがその話の中にも出てまいりました、非常にいいことだなど。

これが一端、1つの場所ではなくて、朝倉市全体の中に伝わっていけば、きのう来、話が出ております地域と学校と連携をとったものが具体的に進んでいくのではないかという

ふうに思っておりますので、あえて質問をいたしております。この2点について、教育長、いかがにお考えでしょうか。特に後半の場合は、新任教師、あるいは赴任してきた教師等も含めまして、ぜひ積極的に郷土のいろんな問題にかかわってほしいという気がいたしておりますので、その点もあわせてお願いいたします。

○議長（手嶋源五君） 教育長。

○教育長（宮崎成光君） 今、御紹介がありましたほかに、堀川のほう、大福、それから朝倉東、それから蜷城と、いろんところで地域のそういう史跡とか、遺産とか、そういうものを大事にする思いを育てるための活動に地域の方に協力していただいております。

学校がそういうふうな教育を充実するためには、そこで教鞭をとっております教職員がどれだけ知識があるか、理解が深まっているかということが大事になります。

最近の人事では、必ずしも地元のこの朝倉近辺の職員の方だけが勤務してるという状況ではないような状況になってまいりました。そこで、市の教育委員会としましては、この朝倉の地に勤めていただいています先生方には、ぜひこの地域のそういう歴史とか文化とか、そういうものを知っていただいて、そのことを踏まえて教育をしていただきたいということを考えまして、初任者の研修の中にそういうところをずっと回りながら知識、それからそういう思いとかいうのを理解していただくような研修に取り組んでおります。そういうふうな教育委員会として特段抜き出してしてるのは、新任にはそういうことをしております。

あと学校でそれぞれの地域の方々の御協力をいただいて取り組んでいるものについては、学校のほうで進んで参加するよというふうなことで指導していったるところでございます。

以上でございます。

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員。

○18番（実藤輝夫君） 今回の問題の捉えられた皆様方の思いが、今回のケースを発端として、今も取り組まれてるものももっともっと深く、そして地域の郷土愛に資するような形で展開されることを心から願っております。そうすれば、今回取り組んでこられました皆さん方も含めて、そしてまたそれ以外にも、あちらこちらでやられておる方々にとっても大きな光になるだろう、指針になるだろうというふうに思います。ぜひお願いいたします。

通告の関係で、時間に制限がありますので、これについては今後期待するというところで、ぜひ実現をしてほしいと思います。

2番目に、バサロ、三連水車の里あさくらの現状と今後の対策についてと題して通告をいたしております。

この問題は、昨年、バサロのパン工房が閉鎖されて、その後、杷木の方々とお会いすることがあって、うちにも来られたわけですが、特にパン工房が非常にいろんな問題があっ

て閉鎖して、今、資料室みたいな形になっておりまして、これは建設委員会でも豪雨災害見舞いの帰り道に寄ったり、私も個人的に行っております、いろいろな話を聞いておりますが。象徴的にこの話を時間の関係で全体いろんな話をしたいんですけども、ピンポイントで一つ一つ、具体的にこれはどうするのかという問題から入っていきたいと思います。

話を聞きますと、取締役の定例会におきまして、11月26日にいろんな話が出たという話であります。私もこの問題を受けまして、6月の決算報告が出された折に議案質疑をいたしまして、問題点を明らかにしたところでありまして。市長は前向きに何とか頑張っていこうという形でありまして、また担当職員もオブザーバーという形で入るという形でありました。

9月の決算委員会におきまして、また私もこの問題を取り上げた経過があります。

11月26日の取締役会で一定の線が出たというふうな話を、これは担当専務、バサロのほうでしたけども、話も出ました。今までの問題点がやっと動き出したのかなという形で思っております。

これだけに限らず、次の展開もありますけども、市長、これについてパン工房の社長として、市長、後でこの問題についてはまた質問しますので、どういうふうに捉えておられるか、お聞きしたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） パン工房の件については、随分御心配をいただきましてありがとうございました。そもそもパン工房をなぜ閉鎖せざるを得なかったのかということですが、確かに売上はありますけれども、いわゆる大きな赤字を出しておると。その間、何度もいわゆる改革といいますか、改善の道を模索したわけですけども、どうしてもうまくいかないということで、結果的にはパン工房を閉鎖というか、建物を閉鎖するわけじゃなくて、パンをあそこで製造して販売するのをやめようという形になって今日まで来たわけでありまして。

その間は、いわゆるあそこに来た人たちの休憩所ですとか、利用組合の皆さん方のいろんな形での利用がありましたけど、本質的にやはりあれだけの建物でありますから、これをずっとそのままにしておくわけにいかないということで、どういう方法であれを生かしていくかということできっと議論をしておりましたし、また、あそこの専務がいろいろと考えていました。結果的にこの前の取締役会の中で、いわゆるテナントを募集しようという形で、その方向で今、進んでおります。

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員。

○18番（実藤輝夫君） これは三連水車のほうのレストランも今、閉鎖されておきまして、時間的な関係で二つを一緒にやりますと総花になりますので、きょうはバサロを中心としてお話をしたいと思いますけども、両方とも24年度決算、今回これが6月議会で出たわけですが、決算ベースでいきますと7万円ほどガマダスのほうは黒字になっておりますけど、

残念ながら三連水車のほうは金額として470万円の純損失を出しております。

じゃあガマダスのほうが7万円の黒字が出たという話になりますけども、これはいろいろな話が出てまいりますので、一つ出しますと、売上実績が約1,800万円、ガマダスのほうでは、バサロのほうですね、ガマダスって会社の名前ですが、売上が落ちております。三連水車のほうは4,000万円、売上実績として落ちております。

こういった先ほどパン工房をどうするかという話は、先ほど市長が公募して、新たに来年度から具体的な話に入るということで理解しておりますので、一定進み出したなというふうに思っておりますが、全体的な物の見方からしますと、確かに昨年、豪雨があったと。しかし9月になりますと、バサロのほうは売上、上がってるんですよ、これちゃんと資料がありますんで。だから上がったたり下がったりする、そういった臨時的な、突発的な、あってはならないような事故、あるいは天災によって打撃を受けるということはよくあるわけですが、総体的に営業としてこれをなしていかなきゃならん。

しかも、これは指定管理制度といいながら、いつも6月でも指摘をいたしましたように、運営上の問題としてバサロのほうは300万円、そして三連水車のほうは約550万円の市からの補助を出しております。本来、指定管理制度というのは独立採算でありまして、ちょうど卑弥呼の湯が典型的で、あそこは補助金出しておりません。ただし、施設は市のものでありますので、指定管理してるのは全てそうですが、そういったものは契約上の中で市が取り組んでいく、これが当たり前なんだろうと思います。

話がいろいろなりますけども、1つは、市長、やっぱりこれは6月の私、議案質疑でも言いましたけども、本来、指定管理をさせるほうの長が受けるほうの長であるという中で、これはケース・バイ・ケースと言いながら、まさに営業、ある面では利益を出していかなければならない部分が多分に多い事業でありますので、こういうやり方がいいのか、全体的に指定管理制度における市長がその受ける指定管理者として長になるというのは、今、どんどん改善されています。この点について、全体的な営業という面から見ても、この問題点は指摘しないといかんということでやってきたわけですが、市長、どのようにお考えですか。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） その問題につきましては、前も私、申し上げたと思いますけれども、私自身がそのことについて疑問を持っておるということをお申し上げたと思います。本来ですとやはり、この事業について指定管理というものが合うのかどうかということ、この自体。例えばガマダスの場合ですと、バサロの部門、いわゆる直売の部門だけだったら指定管理という形になる、あそこには御存じのように大手山のと、それから農業作業部門とあります。この部門はどう考えても、どうかせないかんけど、なかなか採算とれないということで、いわゆる市から幾らか出して指定管理という形でやらせてたんだらうと思います。

ですから、そこらあたりを今からどう整理していくか。もちろんそれぞれの部門、例えば大手山の部門についても、これは御存じだと思いますけど赤字です。そういったものをどう黒字に転換って、いかに赤字を減らして行って、最終的には黒字まで行けばそれはいいことですが、そういう形でやっていかならんということで、今、努力をさせていただいております。

一方、三連水車の話はもうないということなんで、三連水車のほうは置いときます。

○18番（実藤輝夫君） 三連水車も良いですよ。

○市長（森田俊介君） 三連水車については、去年の赤字というのは、いわゆる過大な設備投資、いわゆるあの理念はよかったですけれども、それが実として伴わない形の設備投資がなされた。これは私も非常に責任を、結局、許可したのは私のほうですから、非常に責任を感じてますけれども、そういったところを今後どう投資したのについて今後どう回収していくかということが、三連水車の場合は大きな一つの課題になってくるというふうに思っています。

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員。

○18番（実藤輝夫君） そうすると、先ほどの話の中で、市長が当該指定管理者の長になってるということについて疑問を感じるというだけで、具体的にどうしようという話が出ておりませんが、市長としてそれは今後どうしたいと思ってるんですかね。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） 三連水車の場合は置いときまして、結局、ガマダスのほうについて言いますと、恐らく指定管理というのは、それがくっついてるから全体的にガマダス、指定管理になってるんですけども、今、言いました大手山の管理、維持管理、あれは行政で建ててます、そういうことも含めて、こういう形に今日までなったんだろうと思う。それをある一定の形にするには、大手山をあるとききちっとした形に持っていかないと、なかなか本来の形の指定管理で社長がまた別のところから、方に市長とかわる社長を持ってくるとするのは非常に難しいのかな。ですから、まずは大手山を含めたところについて、しっかり内容を改善していくということに取り組んだ中で、その問題についてはやっぱり結論を出していかなきゃなんらんというふうに思っています。

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員。

○18番（実藤輝夫君） もうその答えは今のお話で出てるような気がするんですけど、今後どうするという話が出ないんで、大手山の公園の問題も立地条件、非常に私はすばらしいところであって、すばらしいものだと思いますが、利用するほうからすると果たしてどうなのかなと、特に冬場なんかは非常に厳しい。今回は交通が遮断された部分もありますから、恐らく25年度ちゅうのは厳しいと思います。パン工房も去年の12月から今日まで閉鎖してるわけですから収入は入ってまいりません。

そういった中で、私が市長が指定管理者の長になることはいかかなものかと思うという

のは、やはりこれは経営的に専属的にこれに造詣のある方が入ってやらなきゃならんような時期に来てると。まさにいろんな問題を含めて、売上についてはどうかというのはありますけど、レジのバサロを中心とした、これは1つの売りなんですよ、朝倉市の顔として、この前、議会報告でもその話が出ましたけども、建設委員会も顔だという形で出してるわけですが、ここの売上実績が下がってきているということについては、やっぱりこの前、担当専務と話して、非常に大きな努力をされてるということは十分にわかりました。しかし抜本的に解決していかないかんのが、この地方自治体の市長と議員という形でやりとりをするよりも、専属的な社長というものを中からでもその造詣のある方、あるいは能力のある方を入れてやっていく時期に来ているんじゃないか。

それから先ほどの三連水車の問題、きょうはバサロのほうが中心ですので、一応置いときますということを行いましたけども、そこも特に4,000万円の売上実績が下がってるという中では、抜本的な解決を図っていかなく、設備投資が多かったということもありますが、ここは特に550万円の補助金を出してるわけですから、私たちは議員として、これは税金からの投入でありますので、当然、指定管理といえども、こういったものについての流れと、そして監視はしていかなきゃならん責務があると私は思っております。

今後、この問題について、パン工房を中心として新たな改革をしていく、こういう時期に来てるんだということ、ぜひぜひ認識していただきたいと思います。

そしてもう一つ、パン工房の点で先ほど話が次の展開に行きましたけども、来年公募するという点について、具体的な話はどうしたらいいのかという話と、あれを具体的に何をもって、例えば食料、以前はパン工房ですから、それ以前もレストランです、だからそういったものとして公募していくのかどうか、そういった方針がきちんと出てるのかどうか1点。

それともう一つは、これ地元の方々の、これは議会報告会で議員全員がその話を聞いてるわけですが、痛烈な質問が出ました、2回にわたって、男性の方からと女性の方からと。時間の関係でそれ以上の追及はありませんでしたけども、地域の住民の方々がこの問題について多大なる関心を持っておられる。こういった問題についてガマダスも含めて、あるいは三連水車のほうも含めて、やはり地域の方々との接触、話し合いをすべきではないか。

3点目は、市長が長を退くという形になりますと、この行政のほうからのパイプが切れるという形もありますので、今現在、担当、農林課長がオブザーバーとして入ってるということではなくて、その中の話として、当然、理事として、あるいは取締役として入って、積極的な話をしていく可能性はないのかどうか。そうしないと切れてしまうという話も出てまいります。

これは方法論の一つですので、きょうどうするこうするという話ではないと思いますけども、やはり何らかの形で市がこれに関与していく方法をとるべきであるというふうに思います。住民との対話、人の関係、こういったものも含めてやっていくべきだと思います。

が、いかがですか。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） 話が勝手に前に進んでるような感じがするんですけども、要するに今の形が、市長が社長であるという姿が果たしていいのかということは、私は率直に申し上げておりますように、きょう退くとか、そういう話じゃなくて、そういう形に将来的に言いますように、ガマダスの場合ですと大手山の問題含めてやりながら、どういう形がいいかということは順次やっぱりきちっと検討していく、その根底には果たしていわゆる市長が社長という形がいいのかということがあります。ですから、きょうしてもらったように行政が関与してなったらいかんとか、当然あそこを出資してる、半分以上は行政が出してるわけですから、出資してるわけですから、これは当然、行政が何らかの形で、どういう形になろうと何らかの形でそこへきちっと関与しておくことは大事なことです。

そしてもう一つ、やはりバサロにしても三連水車の里にしましても、もちろん赤字出しちゃいかんです。赤字出しちゃいかんけれども、かといって、利益追求だけでいいのかということは、設立当時の、なぜ設立をしたのかということを考えて、そこらあたりをやっぱりきちっと持った上での営業でないと、黒字を出してないといけないと思いますので、ただただ単にもうかればいいという施設ではないということも、やっぱりきちっと押さえとかなきゃならんというふうに思ってます。

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員。

○18番（実藤輝夫君） 市長が長であって、向こうの指定管理者の長であることについての見解を述べるのは通告からして当然です。今後の対策についてどう思うかというふうに出しておりますので、当然、私の見解も出すと、これが一般質問だと私は認識いたしております。

それから、2番目の問題についてはもうけだけはいかん、そんなことは当たり前で、これが設立の趣旨は、杷木、朝倉それぞれの思いの中でこれを設立してきたということは十分に承知してる。これが完全に最初から黒字が出たり、あるいは順調にいく、こういう形ではなかった、それはもう十分に承知の中で、それでもなおかつ将来的に売上実績が落ちてくるという中で、もうけ主義ではないんだけど、いかにして売上を上げたり、あるいは地域の人、あるいはリピーターの人たちに愛されるようなものにつくっていくのか、これがきょうの本質的な私の通告した質問の視点です。だから市長からそういうふうに言われるのは心外であります。当然、通告をいたしておりますし、当然、部課長から市長はそういった話の中でいろんなものが出てくるだろうということは推測されてるわけですから、当然、私は自分の職責において質問をいたしております。

これにつきましては、先ほどパン工房については公募して、今後新たな展開をしていくということが取締役会で決定されたと、11月26日に、今後の推移を見たいと思いますが、ぜひ今、私が述べたように、何もこの問題は今の現状がどうだから、批判したり、追及し



たりすることではありません。いかにして地域住民、そして当時の杷木、朝倉の人たちがこれをつくった趣旨目的に沿うような形になるためには、やはり貧すれば鈍する、赤字が続いていたり、あるいは売上が落ちていけば必ず離れていく、いろんな問題が地域の中にも出てくる問題が出てくる、こういったことを避けていかなければならないから、あえて私はきょう、今後の方針と対策について質問をいたしております。

また長についての問題は、市長もきょうやめるとかやめんとかという話じゃないということですので、それはそのとおりだと思います。しかし、一つの見解を述べておりますので、御理解をいただきたいと思います。

では、次に、この問題については今後も私なりにいろいろ見解を述べさせていきたいと思っております。

時間の関係で1番に、国道322号線、西鉄電車甘木駅周辺と旧甘木バスセンターの開発についてと題しております。

6月の定例議会におきまして、甘木バス停についてセンター化するべきであるというふうな形といろいろな話をしました。

もう一つ、甘木町の町民も含めて議会の皆さん方も誤解がある、これは全協のテープを聞きますとあるんですが、西鉄電車駅周辺の、庄屋町を含めて、甘鉄を含めたところがどのように開発されるかという問題、ここにバス停を持ってくるという話があったという話が出ておまして、これをこの前、6月議会のときに担当課と話をしましたら、区画整理上、都市計画の中で出たという話はあるけども、事跡として残ってないんですね、全然。平成3年、平成10年のときに出た資料、今、持っておりますが、これについてはそういう話は全くなかった。途中から切れてるという話も出ておりますが、切れたかどうかは別として、この十数年、全然この問題は行政の中で話をされておられません。

しかし、甘木バス停を何とかしてくれといったときに、この本会議上でも、それから私がないときの全協の中に、これは私も退職しておりましたからいなかったんですが、その中でテープを聞きますと、向こうのほう、西鉄電車駅周辺にバス停を持っていくという話があると。それは非公式で全然私たちも聞いていない。具体的に行政は話し合いがあったら事跡に残して、それをどうするかという形でなければ、こういう話が出ましたという話では出ない、これ進めていくわけにはいきません。本当に市長がそういう話を思うんだったら、具体的にこの3年、これは以前、西鉄バス停の問題が出たときに、事跡残ってますので、きょうやりとりしませんが、まずきょう第1番目に確認したいのは、西鉄電車周辺に322の計画路線と、この問題がいかに整合するのか、どこに持っていったらいいのか、そういった問題をクリアしなきゃならない。

ということは、結論から私、言いますと、あの周辺にバス停を置くというのは矛盾してくる形になります。ショートカットをしていく、322から西鉄電車の向こう、東田線から甘木のほうに来る路線の中にショートカット、近道をつくるという意味で持っていこうと

する計画があるわけですが、じゃあどこにそれをすれば、どこにバス停を持ってくるのか、バス停を持ってくれば、そこ現在の甘観が使っております駐車場とかいうところに当たるわけですが、持ってくればそれ以外にあの密集地の中で、相当な金額をかけてないとバス停はできない。まずその問題について市長はどういうふうにお考えになってるか、お伺いしたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） 何かちょっと勘違いをされてるんじゃないかなと思います。私はバス停の件につきまして、これ浅尾議員の質問だったと思いますけれども、そのときに申し上げたのは、朝倉市に2つの交通の起点があってもいいんじゃないですかと。片一方は、いわゆる既に甘木鉄道、それから西鉄大牟田線のあるあの地域、それと今の甘木の中央バス停という話をしたはずです。ですから、あそこにバスセンターをとかいう話は、それは過去にそういう話があったということであればそうですけど、私自身はそういう考えを持ってませんので、それを前提に話されても答弁のしようがありませんので。

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員。

○18番（実藤輝夫君） 残念ながら、今の答弁がきちんと伝わってない。この前、プラン21の総会でも、ある区会長が手を挙げてこういう話があると。覚えてませんか、来賓で来られてましたよ。そのときに2つの、西鉄電車駅周辺の話と甘木バス停の話がある。100年かかるんじゃないかとか、いろんなこれを2つを話しよったら時間がかかっていく、結論を出してほしいというような形だけでも、これは市長も来賓という形でしたので、執行部がそれは事務局と答弁するという形になりました。

問題は、時間の関係もありますから、甘木バス停が現在、非常に甘木町民も含めて、これは議会報告会でも杷木のほうの住民の方からも、あのような状況でいいのかという指摘がされました。これについて何とか甘木バス停、現在あるところを何とかしてほしい。これは相互乗り入れという一つの問題と、もう一つは再開発と、あるいは具体的に言うと、バスセンターを中心として新しい、旧の西鉄バスセンターとは言いませんけども、朝倉市の中心的な中心市街地活性化の1つでもありますし、顔としての玄関としてのものにつくり上げてほしいというのが私たちの、特に甘木町民の願いでもあります。それがどうも否定的にされてくるという中で話が出たというふうに捉えてるわけです、その中の人たちが。

市長はあそこにつくると言っていないと、それは言っていないよ。でも、その7番議員の時の話の中の話でもそういう話があったと、昔、というのが出てきております。そうすると、具体的に西鉄電車周辺に現実的にバス停をつくるということは、西鉄バスの会社の問題もありますし、物すごい大きな問題があります。

これ将来的に知っておかなきゃいかんですが、この前、都市計画の係長、課長、部長も同席の中で話がありましたが、西鉄電車駅を、終着駅です、移すだけだったら、普通だったら7億円ぐらいかかるそうです、終着駅は30億円かかる。そうするとあの取り合いか

ら考えると、市長は県会議員5期されて、ずっと322の中から甘木周辺のあれをどうするかというのは常に課題で、私もずっとおりましたら、来賓としてそれをお話をされて、積極的に、市がどうするかが問題であると、市はなかなか出せなかった、現在もその方針が出てません。でも、これは近々、平成30年ごろにトンネルが322ができるという計画ではなってます。それから今、東田のほう、馬田のほうは東田のほうまで来てまして、それから甘木のほうに來ます。十数年後に期待をしてるわけですが、その中でどうするかという話になりますと、物すごい大きな問題が出てくる、金額的な問題と、場の取り合いの問題と、いろんなことが出てきて、本当に10年、20年で解決するのかというぐらいの大きな問題です。

そうしますと、この問題を私が出したのは、ここに私たち町民が、もしかできるかもしれないという幻想を持つことは現実的にほとんどないですよと、だから今のバス停を何とかしなきゃならんのではないですかということ新たに認識していかなければだめなんだと。これをこの前、6月議会の中で、そこだけを私は取り上げてまいりました。

市長、ここできのうの10番議員の質問の中で、市は西鉄のほうに具体的な相当のものを提示すると、これ具体的に私たちには一向にその中身が示されたことはありません。相手があるからできませんじゃなくて、当然、極秘情報、金額は例えば売り買いのときとか、具体的に今、乗り入れだけの話で西鉄に持っていつているのか、あるいは再開発も含めて、ちょうど22年3月に塚本勝人前市長のときに3月に提示されて、そこでは新たな市長のときにやりましょうという結論で送られている。これテープに載ってますので、きのうも確認しました、これは間違いありません、22年3月19日、全協でのテープ。

ということは、そういった具体的な案があつて、それは森田市長が受けるか受けんかはまた別ですよ。しかしそういった具体的な話が提示されてる。しかし、そこで全協でそれが結論出たわけではありません。新しい市長が、もう塚本市長もやめるということでしたんで。そこではやはり朝倉市のほうから積極的に西鉄のほうとの関係で対応していこうというものが出されてるわけです、ここに資料がちゃんと持ってきてますけど、資料あるわけですよ。これでなければ、今、話をしました西鉄のほうに具体的にどのような交渉の内容で話をされてるか、できる限り教えていただきたい、開示していただきたい。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） 今の最後の質問にお答えする前に、どうも誤解があるようなんで、それだけはきちっと御理解をいただきたいと思うんですが、私はあそこのバスセンターといますかね、交通の起点といますかね、これをいわゆる甘鉄、いわゆる庄屋町の、あそこに持っていくとか、そういう話、一言もしたことございませんし、いかにも今の甘木の中央バス停というのは、これ甘木町と言われましたけど、甘木町だけじゃないんです、の方だけじゃ。例えば安川方面、私の安川方面からも市のデマンドバス乗って來ます。それはいろんな方面から來ます。そういうときに、やっぱりあそこでみんなが乗りおりでき

て、乗り継ぎができて、そして西鉄のバスも来ますんで、386を通ってるバスに乗り継ぎができれば、市民みんなが便利になるんです。ですから、そういう思いで今日まで西鉄との話について取り組んでまいりましたということは、まず最初に申し上げさせていただきたいというふうに思います。

その上で、じゃあ今、西鉄とどういう話をしてるのということです。ただ、具体的にじゃあここでこういうことで、こうしてますということは正直まだ交渉、話の途中ですので申し上げられません、具体的な条件等については。ただ、言えますことは、当然、西鉄としては前のいわゆるバス停部分をそういった形で活用するとなると、あとの後背地、向こうの後背地という言い方が適当かどうかは別として、残った土地の活用について、西鉄としても自分とこの財産です、活用しにくくなるだろうと。そういったことも含めて、市としてはお互いに協力してやりましょうや。私も協力、うちも協力しますと。ある一定のものを提示させてもろてます。これは具体的にわからんじゃないかと言ったら申しわけないです。しかし、この前も申し上げましたように、相当な思い切った提案をさせていただいております。現在のところは西鉄がそれに対してどう返事が返ってくるのかということをごちらとしては待っておる。

ただ、言いましたように、その前提となるのはちょっと要らんこと言いましたけれども、やはり西鉄としては全部市に買ってほしいというのが本音かなというのが今の私の感じです。

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員。

○18番（実藤輝夫君） 西鉄電車のところで誤解があるんじゃないかという話ですけど、誤解はありません。甘鉄の現在の場所しか西鉄バスのバス停をセンター化するところはないという論拠を、私がきちんとするために西鉄電車のところにもそういう話があった、そういう話があったというのが22年3月19日の全協のテープにそういう発言をした人がおりました、それは現実的でないんだということをごこの場所で明らかにして、市長も今、言われたように、はっきりと考えていませんと、今、言われたので、それを前提にして甘木町の中のコミュニティ協議会を含めたり、プラン21を含めてそういう会合の中でその話をしていかなければ、堂々めぐりになってるところがあるから、ごこの場で正式に市長の見解を問うたわけです、何の誤解もありません、ということです。

2番目は、先ほど甘木バス停が必要であるということについては、もう全くそのとおりです。それであるならば、今、この間、ずっと流れてきたものは、相互乗り入れという話だけが先行してる、この前も6月議会ではそのように言われて、再開発は考えていませんというふうに結論づけて、私の質問に対して答弁されました。違うと言うならば、後で総務部長を含めて調べてください。考えていませんと、だから私は議会だよりの中にもそう載ってますので。

そうなってくると、話が違うじゃないかと、1つは相互乗り入れをするというのは大事

なことですよと、これはそう。きのうの10番議員の中にも、これとこれは問題は別だけでも、一体的にも考えられますよ。そのまさに今までの経過の中で、西鉄鉄道、西鉄が、会社が、いろんないきさつがあったということで、これも風聞、いろいろありますけども、その当時の人たちの職員の方、22年の3月19日に出してきたときには、そこには西鉄の会社の方も入ってそれをつくったというふうに証言をしております。証言をしております。ということは、西鉄は排斥されてつくられたわけではない。これはそれから先の話合いの交渉をどうするかという話なんです。

だからそういったものが非常に誤解されて出てきてるので、今、あれをどうするかるときには一体化した形でないと、西鉄株式会社は相互乗り入れだけで朝倉市の要求をのむということにはならないというのは、私が非公式です、これは私は残念ながら権限がありませんし、そういった市長の執行権もありませんから、非公式に聞くしかありませんが、そういった話が飛んでます。具体的に6月の段階でその話をしたら、相互乗り入れが私の考えであって、再開発には考えてないという話になってきましたので、それではこれは前に進まないだろうと。一体化しなければ絶対に相互乗り入れもあり得ない。幾ら市長が向こうと交渉してもこの問題については前に進まない。こういうのが現状であるということを確認しておりますし、ここで明らかにしたいというふうに思っております。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） 再開発というものの捉え方だろうと思うんです。じゃあ市が全てあの土地を買って、市が主体的にやるのか、私はそれはないと言ったんです。もちろん民間が、民間の方が、西鉄であろうと、どこであろうと、そのバス停以外のところについて開発をされることについては、市としては当然、協力しますよという話であって、そして、おまけにちょっと気になるんですけど、実際ないと言われますけども、そういう確信を持って言われると、非常に私としては情けない思いがいたしております。

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員。

○18番（実藤輝夫君） 6月の議事録に載ってますから、6月定例議会の一般質問の中で再開発は考えてないという形で、だから再開発の範囲がどこかというのは、先ほど私が言ったように、市長はどのような形で西鉄と交渉しておるのかというのが、私ども甘木町民としても、あるいは全体、あちこちから聞くんです、この話は、どうなつとるとねって、今、市はどういう対応しよるとね、旧甘木町だけの問題ではないという、先ほど市長がおっしゃったけど、そのとおりなんですよ。市の全体の中からも、この前の議会報告会の中からも杷木の人が言ったように、あっちこっち行きますと、どうなつとるとねという話で、じゃあ具体的にどのような話が進んでいるのかというのは、今、先ほど言われましたように、全体としては買う予定はないけど、開発する予定はないけど、部分的な話はしますよという話は、きょう私は初めて聞いたんです。きょう初めて聞いた。ほかの人で違うと言うんだったら教えてほしい、いつ、どこでその話が出たか。私たちはこういった暗

中模索のはっきりしない情報の中で、何とかしてほしい、何とかしてほしいと言ってるわけ。

だから先ほど言ったように、当然、交渉の内容において、極秘状況とか、言えないところがあるかもしれないけど、市はこういう計画案でもって西鉄に対して交渉しておりますというのは、当然、私たちは承知しなきゃならんし、それに基づいて意見を述べていって、これ市長だけが全てを取り仕切って、全てを俺がやる、だめのときには仕方がない、あるいはそれは何だ、結論は俺が最終責任とる、そういった問題ではないんですよ。みんなで知恵を合わせて、現実可能なものにしていくために、これがよりよい甘木バス停が昔のにぎわいを取り戻して、朝倉市の顔として立派なものになっていくような形をとるためには、みんなの知恵も必要なんです。だから情報が私たちに入ってこない、だから具体的に話せるとこまではどういう話をしてるかぐらいはやるべきではないかと言ってるんですよ。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） 当然、しかるべき時期、ある程度時期が来たら、当然、議員の皆さん方にもこういう形で今、してますというお話をさせていただきます。それは当然のことです。最終決まったからこれにしてくれという話なんか、そういうことは考えてません。ただ、交渉の話ですから、その時期、皆さん方にこういう形でやってますよ、時期をいつにするかが一番相手との関係で進めやすいのかというのは、当然考えさせていただきます。

それと、先ほど言われますけども、実藤議員も地元の議員さんで、甘木町内の議員さんであります。いろんな情報をお持ちでしたら、本会議の場じゃなくても、私はいつも市役所におりますんで、いろんなアドバイスをいただければ幸いかなというふうに思います。

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員。

○18番（実藤輝夫君） おもしろいことをおっしゃいますね、びっくりしました。それは私が個人的な情報能力と、あなたの情報能力は10倍から100倍違いますよ。しかも私が向こうの社長と会ったり、副社長と会ったり、幹部と会うということは、ほとんど向こうとしても会わないでしょうし、やはりその中の流れてくる人たちの話の中でしか出てこない。それを一々、正式な情報みたいに言うわけないでしょう。だから私はそういったものが幾つかあったとしても、ここではそれが具体的な1つこうだった、こうだったとは提示してない。だから市長に、いわゆる交渉相手がおるから話が皆さんにできないというんじゃないで、ここまで、今は乗り入れだけの問題ではなくて、例えばバス停の改修の問題、あそこ周辺のバス停を含めたところの一部の買い取り、あるいは開発、どちらでもいいです、そういうこと。それから全体的なものも含めてこれはしてませんか、そういうものが私たちの中に入ってこなければ判断材料がない。私が、市長だけがやるわけじゃないんだから、これは、みんなでやっていかないかん問題なんで、みんなの関心。

先ほど5番議員の市長の方針について市長が答えた中で、中心市街地の活性化、プラン21だけじゃないでしょう、プラン21は前からずっと流れ、粛々と今も進んできてますよ。

今、まさに市長が新しい3年半、約4年前になられた市長として、新しい中心市街地をどうするかという、市長が初めてこの問題に具体的対応していく人ではないですか。プラン21はもうそれ以前からずっと計画を練って、1期工事があって、2期工事にプラスアルファがどこにありますか、市が。今、計画練っておられるものについて粛々とやっていく、これしかないんです、そういうふうに私たちは理解してます、ずっとやってきた当事者ですからね、私は。

そうすると、あくまで今のやり方をする限りは、来年になっても。一つ、市長、6月の時点で私はこういう質問しました。就任以来、何回、西鉄と交渉されましたか、何回されました。市長自体がですよ。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） 私が西鉄と、特に副社長とお会いしたのは1回です。ただし、そのときに市としての考え方を提示をさせていただいてます。その後は課長、向こうの担当者レベルとの交渉をずっとしてきてると思います。その報告を私のところに上がってまいります。そういう状況です。

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員。

○18番（実藤輝夫君） この前、職員との話の中で、6月以降、いつ西鉄と交渉に行ったかという話をしました。そしたら11月だ。そしてそこは誰と話したか、課長でした。当然でしょう。これは事前にそれぞれの段階を追って話をしていくというときには、もうその時期は過ぎて、今さっき、自分のほうが提示したと言ったでしょう、市長は。具体的にこの問題について6月から今日まで全然進んでないし、市長も行っていない。これは具体的に向こうが出してくるのを待ってます。西鉄は営利会社ですよ。これはもう皆さんが、おまえ、そんなこと言ったって、甘木だけが全てじゃない、そうおっしゃればそれまでですよ。しかし、先ほどから出されてますように、朝倉市全体の中で、私も常々言ってますように、私は旧甘木町に住んでるからだけじゃありません、私は旧甘木町の議員ではありません、朝倉市の議員です、間違えられないように。それで、そこに住んでいるということです、所属、そこに住んでいるということです。

全体的に見たときに、いろんな人から、これは何なんだと、しかも交通の重要性も含めて、乗り入れも含めて、いろんな意見が先ほどからも、きのうからも出ておりますし、ずっと出ております。何とかしなきゃならんのだというのは、当然市長はこれまでの成果と言うんだったらそれも一つとして出してもらいたい。それが今後、具体的にこれが実現する可能性が本当にあるのか。

西鉄は何ら私が6月の時点で言って以来、何ら回答はいたしていないということでした。市長、そうでしょう。だからこれをじっと待ってて、西鉄も営利会社ですから、プラスアルファの中の話でなければ交渉って成り立ちません。市長が全部を買って開発する気はない、それは一つの市長の考え方だけでも、じゃあこれを具体的に、今のやり方でやる限り

は、何年たつたって西鉄から乗ってくることはないとは思っております。

この前、課長が来たときも、これは事実だからそのまま課長がいいとか悪いとかじゃない、当たり前なんです、市長、そうでしょう。課長が行って、向こう、社長会いますか。向こうが副市長が行けば副社長が会いますよ、総務部長が行けば総務部長が会いますよ、これが交渉事の一定のルールです。必ずしも絶対そうではありませんけど、一定そういうふうな形でやるわけです。最終的に長と長の話でこれが話が決まっていくわけですよ。

こういうことをきちんとしないで、またぞろ旧甘木町の懇親会等もあるでしょう、その話が出てくるでしょう。現実には市長も答弁してるんだけど、何とかなるような形をみんな幻想描いてる。現実には西鉄との折衝の中で、具体的な内容も私たちにはわからない。そして前にも進んでいない、西鉄側の対応もほとんどゼロ。そういう中でこの問題が解決すると思えるのかというのが私は今回の一般質問のずっと西鉄電車のほうでこれはありませんよ、次の段階、一応、私は私なりに論理展開をしてるつもりですけど、このままの状態では、やっぱり市長は積極的にもう一つの考え方を提示したちゅうんだったら、それが具体化するよう話をしていくべきじゃないですか。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） 話をしております。実藤議員、いろいろだめだと、できんとか言われますけれども、それはそれなりにきちとした形の中で、例えば直線的に山に登るかということもありましょう。裏道から登ることもありましょう。そういったもろもろのことをやりながら、必ずあそこについての市としてのバスのセンター機能というのができるようにということで努力をさせていただきたいというふうに思ってます。

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員。

○18番（実藤輝夫君） 先ほど市長が2期目、出馬表明をされましたし、やはりみんな町民も含めて市民も期待をするわけです。きょうそのような答弁で登り道は幾つもあるよと言われりゃ、違いますよという話にはならないと思います。それがその登り道が具体的に登頂できる道なのかどうか、一つ一つを確認していった場合に、今のような登り方ではどれをとっても具体化することはほとんどないだろうと。私は議員としての見解を述べてるんです。万が一、文句があるなら、議員さんたちの中にあるなら、市民の中にあるならば、いつでも対応して話し合いをしたいと思います。それだけの責務を担ってやってるわけですから。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） 実藤議員の見解はそういうところで承ります。私は必ずやるということでやらせていただきます。

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員。

○18番（実藤輝夫君） 残念ながら時間があと1分ということで、この問題については平行線だと思いますけども、現実には西鉄の対応を聞けば聞くほど、相互乗り入れだけでは受



け付けない。具体的な市の提示が現実的になされない限りは、それが実効性伴うものでなければこれは実現しないということは、私はそれなりに聞いてますが、これは市長がそうではないというふうに言われるわけですから、時間的にまた同じことになりまして、27秒ぐらいしかありませんので、これについては、10秒間でお願いします、時間が……。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） 現実的な提示をさせていただいております。

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員。

○18番（実藤輝夫君） 再度、具体的な提示が中身がわからずに論議を進めていって、期待してくれと言われてもなかなか厳しいんですが、私の一般質問はこれで終わります。

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員の質問は終わりました。

以上で、本日の日程は全部終了いたしました。

次の本会議は、あす12日午前10時から行います。

本日は、これにて散会いたします。お疲れさまでした。

午後3時11分散会